

先輩が語る MBAのメリット：特集にあたって



経営戦略研究科教授(経営戦略専攻) 佐藤 善信

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科(以下IBA)が2005年4月に開学して以降、経営戦略専攻(以下BS)の修了生は400名程度に達している。社会人対象のCMC(企業経営戦略コース)の学生の平均年齢は38歳程度である。年齢階層は、上は60歳代から下は20代後半までにわたっている。

進学の動機は3つに大別できる。第1は、年齢の高い層に言えるが、これまでの社会人経験を理論的に整理するという動機である。第2は、中年層に多いのであるが、経営階層をステップアップするための学習という動機である。第3は、若手に多いのであるが、営業やコンサルタントとしてのスペシャリストとしてのキャリアあるいは起業家としての道を歩むための動機である。

CMCの特徴は、1学年70名以上という規模の大きさにある。意欲の高い社会人学生が、仕事の忙しい中で、寝る間も惜しんで相互に啓発する姿には頭が下がる思いがする。この点は、科目等履修生たちが異口同音に指摘している点でもある。科目等履修生から入学した学生に「なぜCMCに入学されたのですか?」と聞くと、「CMCの学生たちの意欲がすごく高いと感じ、ここで学習すればすごく励みになると思ったからです」という答えが即座に返ってくる。このような学生同士のネットワークが学生数の多さから自然発生的にいくつも出来上がっている。しかも、それらは相互にクロスし合っているのである。これは一生の財産になる。

第2の特徴は、教員と学生の距離が近いということである。専門職大学院は有能な実務家を養成することがその使命となっているので、その意味では、教員だけでなく、学生も自分の職務の「専門家」となる。学生の専門的知識は「特殊」で「局所的」である。他方で、教員は当該分野の先端的な「一般」で「普遍的」な専門的知識を有している。この2つが融合することによって弁証法的な新たな知識が生まれるのである。課題研究がまさにその場に当たる。

梅田にキャンパスがあることも大きい。学生同士の縦横のネットワークの深化、そして学生と教員との弁証法的関係の進化にとって、茶屋町は「補講」の打って付けの場である。茶屋町から新しい情報が発信できるように願っている。

修了生の生涯学習の拠点としてのIBA研究フォーラムの活動も本格的に行われるようになった。12月19日は、初のクリスマスパーティが行われた。皆様方も、是非、この実践的学習意欲の高いCMCの輪に加わっていただきたいと願っている。